

### 主要論点3:学部と大学院のカリキュラムの改善など大学教育の在り方

#### 論点:

- 大学のシステムが学問の変化に対応できていない。学部の壁を壊して再編するような取組が必要。
- 創造性を磨くとともに、研究の「ひらめき」や知的触発が得られるよう、学習・指導方法等の開発・普及、若手研究者の産学官による塾、研修コースの設置等知的触発の場の設定。
- 「学生の立場」に立つ大学院教育(教官の意識改革、学習・指導方法などの開発・普及)
- 研究が先端化し、大学院生になってから広く興味を持つように促すのは困難。もう少し早い段階から新しい知識を身に付けさせる必要。
- 大学院は大学と切り離れたあるべき姿を作っていくべき。

#### 大学院における学生の質の保証

優秀な留学生の獲得が進まず、学内における切磋琢磨ができる環境が整っていない場合がある。

#### 対応策

海外拠点等における学生獲得活動の実施

各大学で個別の入試を行っており、学生を客観的に審査する仕組みがない場合がある。

#### 対応策

大学院で何を学ぶべきかを整理した上で、その達成状況を評価

在学中、また修了時に学生の成績を厳正かつ適正に把握していない場合がある。

○アドミッション・オフィスを整備し、戦略的に国内外の優秀な学生獲得活動を実施

○大学院において、何を学ぶべきかを明確にした上で、入試におけるエッセイや日本版GREの導入や、適性試験等を実施。その際、学生の能力や今後の可能性を評価

#### 大学における教育の充実

学部における幅広い知識の修得がなされていない場合がある。

教員が論文数などで評価され、教育活動について評価されていない場合がある。

教育のカリキュラムについて、企業等に就職した場合を見通して体系的に整理されていない場合がある。

就職率が評価されていない場合がある。

大学の事務局体制が脆弱な場合がある。

#### 対応策

教員の教育活動を評価する仕組みやインセンティブの導入

#### 対応策

企業の教育資源(人、教材、設備)の提供により、大学院教育を充実

#### 対応策

大学経営を行うプロとしての事務局を整備

○課題解決型のコースワークやコースワークを通じた研究計画と実験デザインの立案力・構想力を身に付けさせること、企業と連携したカリキュラムの編成等を実施

○大学経営を行う優秀な事務局スタッフの配置